

リーディングDXスクール事業【実践事例】

天草市立本渡南小学校（熊本県）【指定校】

【取組内容①】 学び方のスキル重点項目の設定と振り返り

「学び方のスキル」の育成			授業改善部会
	9.10月 全学年重点項目	「コミュニケーション」	
	「学び方のスキル」9.10月重点項目（最高2つ）	理由や具体的な手立て等	振り返り（月末）
低学年部	学習の見通し ▼ コミュニケーション ▼	【学習の見通し】 - 児童が単元の流れをつかむことで安心して学習に向かえるようにするため。 - 単元のゴール・身につけたい力を明確に可視化して児童と共有する。（掲示物） 【コミュニケーション】 - ペア学習のねらいをつかませる。（単なる伝え合いにならず意図をもって活動できるように） - 考えをもてなかったときも、自分から相談に行けるように。	【学習の見通し】 - 単元の学習の流れは国語・算数バージョンを作成 - 単元のゴール・身につけたい力は単元は必ず児童と確認し、広用紙に書き掲示できた 【コミュニケーション】 - 仲のいい子との伝え合いになり、なかなか意図をもって活動させることができなかった - 一亀川小の取り組みの例をもとに、だれとコミュニケーションをとることができるのか掲示物を用意してみたい - 低学年なので、こちらから個別に「〇〇してみようか」と誘導も必要
中学年部	学習の見通し ▼ コミュニケーション ▼	【コミュニケーション】 - 困ったときに、自分から動く児童を育てるため。 - 手立て - ペアやグループ、全体での学び合いの目的を示す。 - 他者の考えを参考にできる場作りをする。（聞きに行き、クラウド上で確認するなど） 【学習の見通し】 - 次に何をすべきか考えて学習する児童を育てるため。 - 手立て - 学習過程を板書やクラスルームに示す。 - 進度差に応じた課題や活動を準備する。	○4年部では、社会科を中心にクラウド上での他者参照に取り組んでいる。 ○3年部では、スプレッドシートやスライドなどを使って他者参照できるようにしている。 ○自分から友達の見え方を見ようという意識を育てていく必要がある。 ○意見を出し合う時間が短縮できるので、深く合う活動に時間を確保できる。 ○学習過程を提示することで、自分の速度に合わせて学習ができるよさがある。ただし、どこで全体指導を入れるかが課題。
高学年部	学習の進め方（学習形...） ▼ コミュニケーション ▼	【コミュニケーション】 - 全体の前での発表の機会の確保 - 単元終末で全体orグループで、まとまった自分の考えを発表する場の確保 - 話し方・聞き方・意見の繋ぎ方等の具体化、価値観の共有 【学習の進め方（学習形態）】 「こんなときこそアウトプット」の活用 「今、○○さんと交流しているのはなぜ？」	・全体発表の確保（5年部） ・アウトプットの価値付け～考えをつなぐ ・△アウトプットを促す必要がある ・「つなぐ」
特別支援部	学習の見通し ▼ コミュニケーション ▼	※振り返り2つの視点から記述させる ・授業のはじめに、板書や学習ボードで確認を行い児童が決めたり、入れ替えたりする場を設定する ・児童の興味関心や強みを生かして、教材・教具を準備する。 - 例：具体物or半具体物orイラスト 鉛筆orペンorチョークorタブレットor文字カード ・コミュニケーションの方法を選ぶように朝の会を進化させる。 - 例：発表の場、文字、反復、言い方、答え方	○コミュニケーション ・高学年は特に慣れているので、個に応じたルール強化が必要だと感じている。けじめ ・授業の中での反応に重点を置いた。発信は得意だが...取組中である。 ・一日一回、授業の中で発表することを目標にしている。少しずつ慣れてきている。 ・話型を使っているコミュニケーションは、上達してきた。（通級学級） ・色々な先生方に関わっていただき、話し合いの学習ができた。

教師が毎月
重点項目の設定と振り返り

教師が「学び方のスキル」の育成に関する月別の重点項目を毎月設定し、校内研修の中で振り返りを行っている。

主な内容は、学年別目標、教師の具体的な手立て、振り返りの3点である。スキルの項目を設定するだけでなく、スキルのイメージや活動内容、手立てを協議し、より具体的な授業改善に繋がるようにしている。また、振り返りを重視している点も特徴である。取組の効果を検証し、改善につなげるための仕組みを設けている。